

千葉公園 「松の雪吊り」 南部様式

千葉公園では、立冬を迎えた時期に冬の風物詩となっている「松の雪吊り」を行っています。雪吊りは松の枝の保護と冬らしい景観の創出を目的として平成4年から開始しました。綿打池・中の島にある大小5本の黒松に、杉丸太・竹・荒縄を使って雪吊り作業を施します。

雪吊りは冬季、雪の付着により樹木の枝が折れたり幹が傷ついたりしないように、縄で枝などを保持することが本来の目的ですが、美観目的で行われることもあります。雪の少ない千葉公園では、伝統文化の伝承と市内の名所づくりにと始められ、11月中旬から2月下旬まで鑑賞できます。

樹木の幹付近に柱を立て、柱の先端から各枝へと放射状に縄を張ることを「りんご吊り」といい、雪吊りの代表的手法です。柱を立てずに幹から縄を張る「幹吊り」という手法もあります。また、雪吊りには兼六園式、北部式、南部式の基本三様式があります。北部式、南部式というのは、東京都建設局の旧北部公園緑地事務所と旧南部公園緑地事務所が兼六園方式から独自に派生させたものだそうです。千葉公園では南部式を採用しています。

1 雪吊りの様式

(1) 兼六園式

帆柱先端の頭飾りは、荒縄を巻きつけ、飾りいぼ結びを左右と先端3箇所に施した素朴で迫力ある元祖雪吊りです。裾回し（ブチ）を作らず直接木の枝を荒縄で吊りこみます。東北地方では「りんご吊り」といわれ、雪の重みで枝が折れることを防ぐ実用的な雪吊りです。

(2) 北部式

頭飾りは「ワラボッチ」といって、ワラやコモを編み上げて作った飾りがつけられます。鑑賞庭園でよく観られる装飾目的の雪吊りです。裾回しはバチ（かんざしとも呼ぶ）と呼ばれる竹の骨を傘の骨のように取り付け、先端のブチに割り竹を回し、吊り縄を結び付けます。

(3) 南部式

頭飾りは「バレンや纏（まとい）」といわれる吊り縄を編みこんだ装飾がされています。細めの縄を沢山吊り込んだ装飾的な雪吊りです。裾回しは北部式と同様に竹の骨組み（バチ）を取り付け、先端のブチに棕櫚縄をまわし、それに吊り縄を結んでいます。綺麗な曲線を描くように縄を張ることが必要です。

①兼六園式



②北部式



③南部式



(以上、財団法人東京都公園協会の解説資料から)

2 雪吊りの作業手順

(1) 準備作業 雪吊り対象の松の調査…樹高、枝幅を測る

- ① 帆柱用丸太の長さ 樹高×1.3倍以上かつ枝幅以上 (吊り縄の角度を60~70°にするため)
- ② 吊り縄の本数算出 円周÷0.2m (20cm間隔の場合)
- ③ 吊り縄の長さ 帆柱の高さ+1.2m

(2) 材料

- ① 丸太 (帆柱用) 檜 (杉) 丸太がよい。雪吊り1件に1本。
- ② 縄 (吊り縄用) … ワラ縄 (コマイ縄)、(結束用) … シュロ縄 (黒)
- ③ 棒杭 長さ1.1m、元口径0.35mの小丸太 (バチ数の1/3の本数)
- ④ 杉皮テープ
- ⑤ 真竹 16本/束程度のもの (吊り縄数の1/4の本数、または円周÷0.8m)

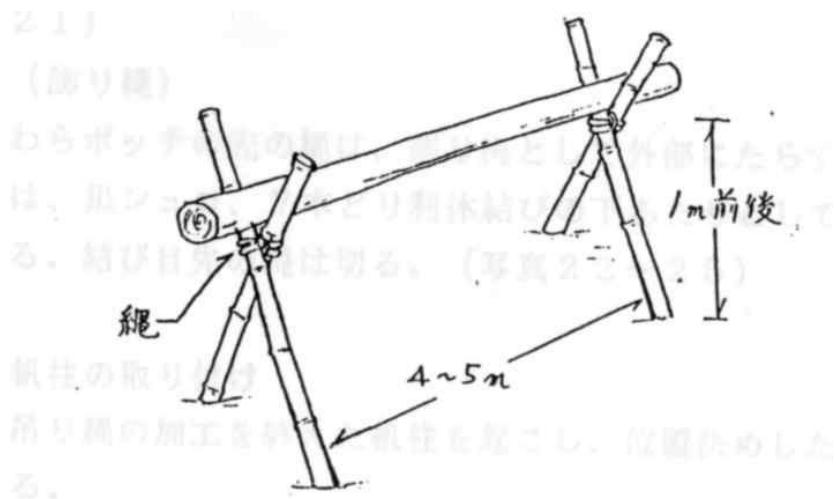
(3) 作業

① 帆柱の位置決め

丸太を実際に立てる場所 (松の中心となる場所で、幹と結束できる部分が2か所あること) に真っ直ぐ立て、高さ、位置が適當か確認する。位置が決まったら、割竹などを地面に指して目印とする。丸太を外し次の作業に備える。

② 吊り縄のヨリ戻しとケバ取り

この作業のために下図のような作業台を作る。



- ア 帆柱用丸太の先端を1m前後出し、作業台に載せる。
- イ ワラ縄を(帆柱の長さ+1.2m)の長さに切り、吊り縄とする。
- ウ 吊り縄を作業台の丸太に仮止めで並べる。
- エ 吊り縄を引っ張りながら(ヨリを戻す)、縄ダワシ(縄を丸めてまとめたもの)にはさみ上下にしごく。
- オ 目立つケバは鉋で切り、吊り縄をきれいにする。
- カ 吊り縄は5本または8本ずつまとめ、さらにその全体を2つ以上に分けて束ね、帆柱の中ほどにくくりつけておく。

③ 頭飾り（バレン、纏（まとい））の編み上げ

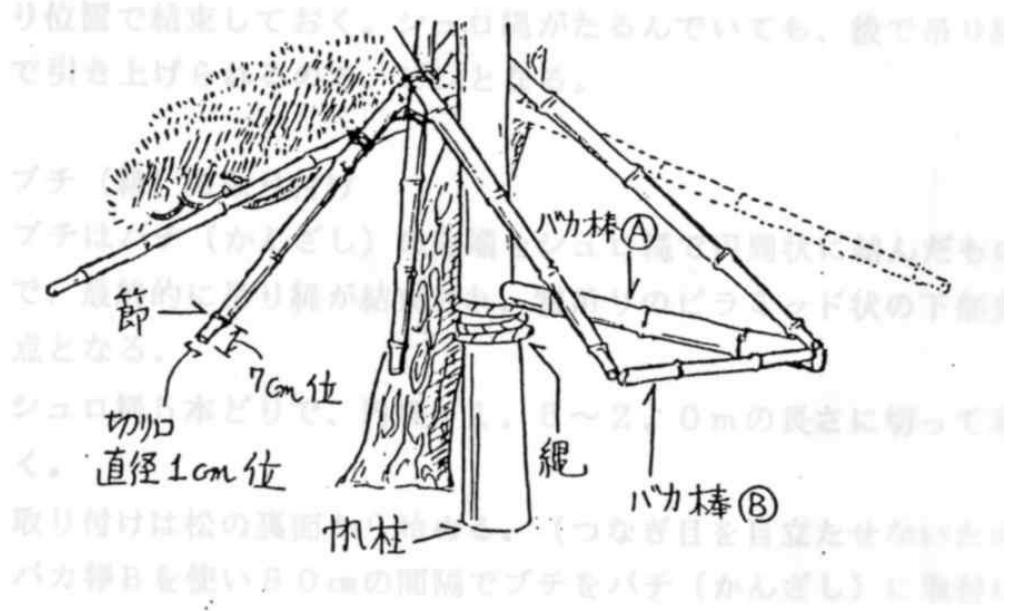
- ア 帆柱の先端に木材とワラ縄で頭飾りの土台（太鼓）を作る。
- イ 吊り縄をシュロ縄で仮止めしながら頭飾りの太鼓に取りつける。
- ウ 縄が帆柱に対して平均に平行になるようきれいに並べ、上中下3か所を針金で固定する。
- エ 針金で固定した2か所とその中間にシュロ縄で飾り結びをする。
(先端から黒シュロ3本、5本、7本取り、利休結び)
- オ 頭飾り先端からすぐ先の縄を、針金で絞る。
- カ 絞った先の縄を2本ずつ取り、バレンを編んでいく。
- キ 頭飾りの先の縄は、飾り縄として外へ垂らす。垂らす長さは、黒シュロ7本取り利休結びの下あたりとして、結び目を作る。結び目の先の縄は切りそろえる。

④ 帆柱の取り付け

- ア 吊り縄の加工を終えた帆柱を起こし、位置決めしたところに立てる。
- イ 位置、垂直性を再確認し、10cm程度の値入を行う。
- ウ 帆柱があたる松の幹に杉皮テープを巻き（2か所以上）、帆柱を松に固定する。

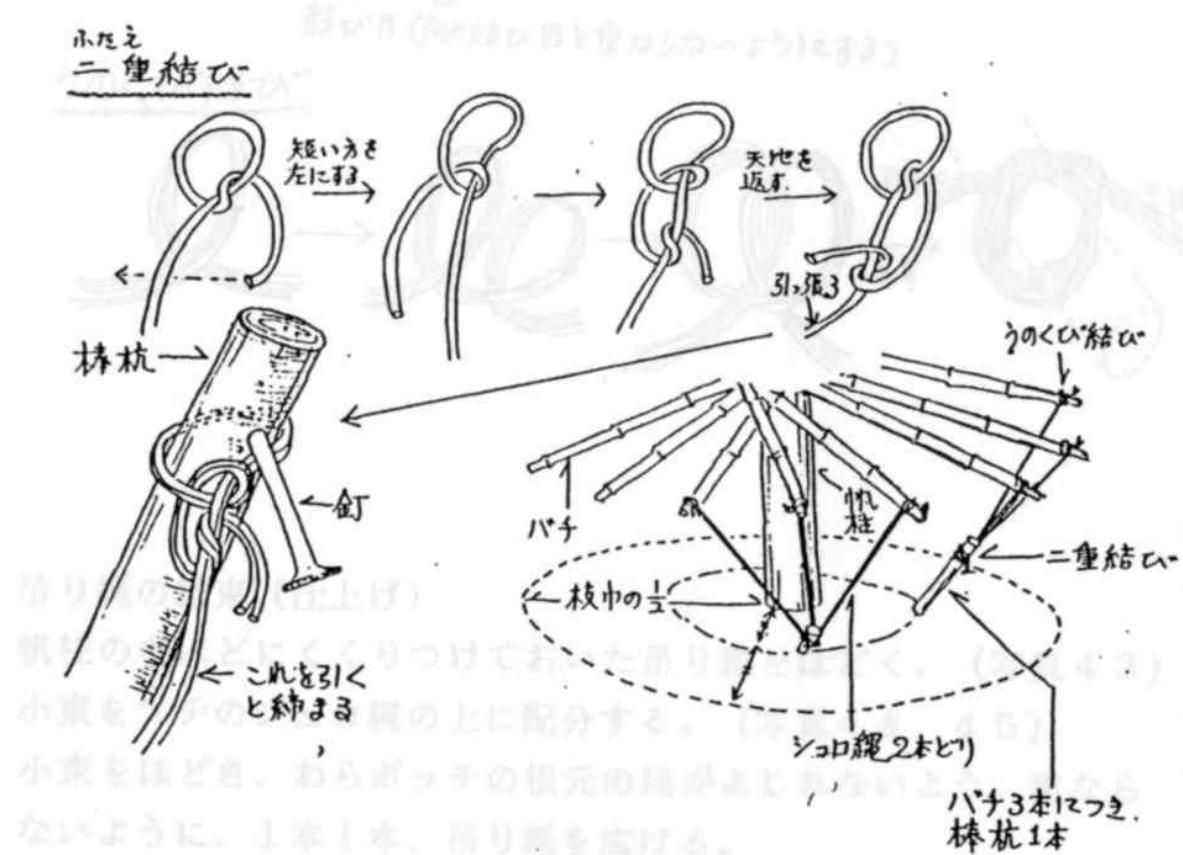
⑤ バチ（かんざし）の取り付け

- 帆柱を立て終えたらバチを組んでいく。
- ア バチに使う竹は節から7cm上で、切り口1cm内外になるところを選んで切っておく。
- イ 竹は末を外方向に、元を帆柱方向に向けて使う。
- ウ バカ棒を2種類作る。
 - A：松の枝幅の1/2強の長さ（バチの出）
 - B：80cm（バチの間隔）
- エ 帆柱にAのバカ棒を当てる目印として、ワラ縄を巻いておく。その位置（高さ）は松の一番下の枝の高さとする。
- オ エの位置にAのバカ棒を当て（バチ先端の位置出し）、バチ用竹の元口方向を松の中に差し込み、長さを調整する。帆柱と松2か所以上に結束する。
- カ 2本目からのバチはBのバカ棒も使用し、バチの長さ、間隔を当りながら結束していく。
- キ できるだけ同一円周上に同じ間隔に鉢の先端がくるようバチを組む。



⑥ バチと棒杭の結束

- ア 棒杭用小丸太の元口下がり 5cm のところに釘を打っておく。
- イ Aのバカ棒の半分を半径とした円周上に棒杭を斜めに打ち込む。バチ 3 本に棒杭 1 本。
- ウ バチの高さを調整しながらバチと棒杭をつなぐ（2 本取りシユロ縄。棒杭を先に二重結び。バチは、鶴の首結びで節の外側で結束）

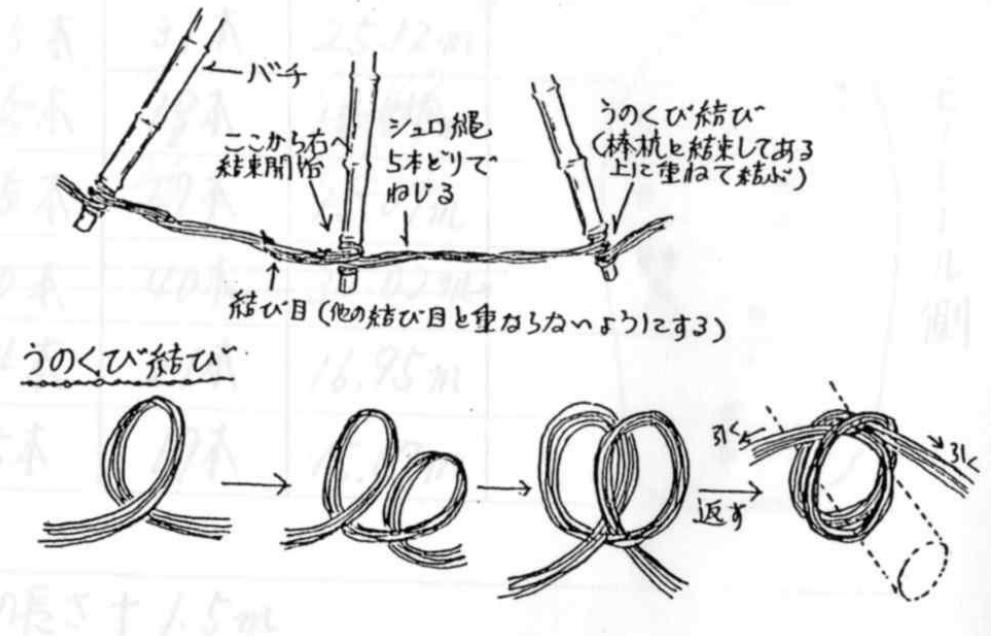


- エ バチは上がったり下がったりしているが、シユロ縄はバチの仕上がり位置で結束しておく。シユロ縄が弛んでいても、後で吊り縄で引き上げられピンとなる。

⑦ ブチ（縁）の取り付け

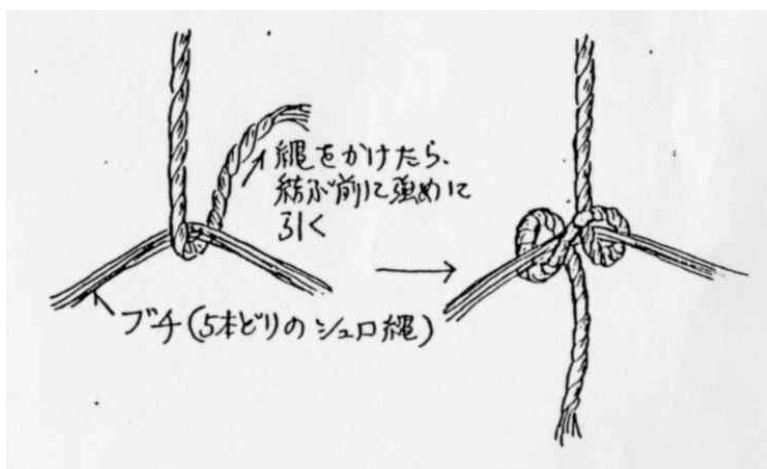
ブチはバチ（かんざし）の先端をシユロ縄で円周状に結んだもので、最終的に吊り縄が結束され、雪釣りのピラミッド状下部支点となる。

- ア シユロ縄 5 本取りで、円周 + 1.5~2.0m の長さに切っておく。
- イ 取り付けは松の裏面から始める。（つなぎ目を目立たせないため）
- ウ バカ棒Bを使い 80cm の間隔でブチを取りつける。結束は鶴の首結び。
- エ 終わりまで来たら始まりと結ぶが、5 つの結び目が重ならないようにずらして結ぶ。



⑦ 吊り縄の結束（仕上げ）

- ア 帆柱の中ほどに括りつけておいたついに縄をほどく。
- イ 小束をブチのシユロ縄の上に配分する。
- ウ 小束をほどき、バレンの根元の縄がよじれないよう、重ならないように、1本1本吊り縄を広げる。
- エ 20cmのバカ棒を使い、ブチに吊り縄を結束する。結束は鶴の首結び。
- オ 全体を結び終えたら、吊り縄にたるみがないか確認する。
- カ 結び目から3cm残して縄を切る。



(1991 日本庭園協会講義資料)

3 千葉公園・雪吊りの諸元表（2011年11月の実績）

樹木No.	ブチ直径 m	ブチ半径 m	吊り縄本数	バチ本数	円周 m
1	8.0	4.0	125	31	25.1
2	4.8	2.4	75	19	15.1
3	5.4	2.7	76	21	17.0
4	5.4	2.7	84	21	17.0
5	4.8	2.4	75	19	15.1